



# 同窓生

伊藤ひかる (Sandra) 丸山フレンドクラブ37回生



フランスのリヨンにて友人と

こんにちは。丸山37回生の伊藤ひかるです。

明泉ほどに楽しく充実した幼稚園は、日本中を探しても他に存在しないのではないのでしょうか。それほどに、明泉幼稚園とフレンドクラブでの思い出は彩り豊かに心に残っています。フランスでマシュマロを焼いたり、クリスマスにはプレゼント交換。そして訪れるたびに、"Hi Sandra! How are you?" と温かく迎えてくださる先生方。そんな明泉が大好きです。

さて、私は大学卒業後に外務省に入省しました。外務省に入ると、総合職であれば、東京霞ヶ関にある外務本省で2年勤務した後、入省時に指定される言語の国にて在外研修を行い、大使館へ配属となります。私は現在、在外研修の一環でフランスの大学院に通っており、今夏からフランス語圏の日本大使館に配属の予定です。これまで、タイ、アメリカ、スイス、フランスと異国の地で生活しましたが、異なる伝統文化から得る学びは計り知れません。例え

ば、フランスには「Apéro」という文化があります。ワインを飲みながら、家族や友達と何時間も会話を楽しむのです。食事の時間を惜しんで勉強や仕事に打ち込むことを美德とさえ思っていた私にとって、こうしたフランスの文化は「今」を楽しむことの大切さに気づかせてくれました。外交官という職業柄、英語をはじめ外国語を駆使する必要がありますが、明泉で培った英語力は大きなアドバンテージです。また、外交の根底にあるのは人と人とのつながり。言葉の壁を越えて信頼関係を構築していく上でも、明泉で教わった「まこと」や誠実さといった規律は、今後も大切にしていきたいです。次世代を担う皆さんが、明泉での日々を存分に楽しみ、それぞれの道で活躍されることを心から応援しています。



## イラストレーターのお増田慎さん

お遊戯会のプログラムなど、園の印刷物にイラストを描いてくださっているのは同窓生の増田慎さん (Guy 丸山フレンドクラブ17回生) です。イラストレーターになられたきっかけや明泉向けの制作についてお話を伺いました。



中1アメリカ研修旅行のキャンプで (上段右から2目)

私は仙台でイラストレーターをしています。明泉幼稚園とフレンドクラブにも通った元明泉っ子です。今でこそイラストレーターと名乗っていますが、子どもの頃は絵が苦手なほうでした。7歳の時に、私の描いた下手な絵を見て親が泣いたくらいです。そもそも練習したことがないので当然だったのですが、私にとって絵は批判されるほど苦手なものでした。しかし、小学5年生の時に先生から色使いをほめられたのがうれしくて復活。子どもはスイッチが入ってしまえば単純なもので、どんな絵が描けるようになりました。

描くほど楽しくまくなり、まさに脳内ルネッサンス。そこから気がつけばイラストレーターになっていました。…というほど簡単ではありませんでしたが、描くことが楽しく、それから35年以上の間、少年時代と変わらぬ気持ちで絵を描き続けています。明泉向けのイラストは、月並みですが子どもの頃の自分を思い出しながら描いています。そして、絵の中でも子どもたちがおのおの自由に自然体でいて、「演じないしぐさ」をする様子を意識して描いています。



### 作品づくりと子どもが描く絵について

私は絵を描くことに正解はないと考えています。それは、それぞれの子どもがそれぞれ違う瞳で見ているからです。みんなから称賛された絵を見て「なるほど、これが良い絵か」と真似てみる。これはお手本として考えれば正しいですが、これではその子の感性を生かせません。型にはめるのではなく、のびのびと自分の描きたいように描かせてあげてください。絵はプラモデルではなく、毎回違う作品ができておもしろいのです。せっかくの子どもの作品。どうぞ描くならポジティブ＆ハッピーで！その子の思いを存分に表現させてあげてください。そして、彼らの見ている無二の世界と一緒に楽しみましょう。明泉でのびのびと遊び学ぶ、お子さんの次回作にぜひご期待ください！



MASUDASHIN 増田さんは児童書やビジネス書籍なども多数手がけています



## Bible verse

互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。コロサイ人への手紙 3章13-14節

## 聖書

# 新年度を迎えて

園長 ダニエル・ファンガー



明泉学園の59年目が始まりました。昨年度も保護者の皆様のご多大なご理解とご協力のもと、無事に過ごすことができました。働き方改革の一端で、先生たちの勤務時間短縮に向けて大きな変更もある中、皆様にはいつもと変わらずたくさんのご協力とご支援をいただきました。本当にありがとうございました。また、昨年度は年度始めから2歳児(タドラークラス)をお迎えし、年間を通して保育を行った初めての年でした。言うまでもなくこの年齢の子どもの成長はめざましいもので、1年でここまでできるのだ！と感激しました。丸山キャンパスでは、今年度からタドラークラスが4クラスと倍増し、ますます幼稚園がにぎやかになりそうです。



### 聖書がすべての基準

明泉学園は開園当初から聖書を全ての土台に据えてきました。人の価値観はまちまちで、時代の移り変わりとともに、社会の考え方もどんどん変わっていきます。しかし、聖書の真理は永久不変で、それに忠実に従っていれば、道を踏み外すことはないと思っています。園の基本方針には、「真理と正義を希求し、神を敬い人を愛する健全な人格の形成を目的する」とあります。その一文に私たちが目指している教育の本質とエッセンスが込められています。明泉を巣立っていく子どもたち一人一人に持ってほしい最重要な資質です。そこにある「真理」や「正義」は、人間の考えや一般社会の風潮や習わしではなく、神様のことば(聖書)が基準となります。また、園は時としてさまざまな決断をしなければなりません。それらについても神様からの知恵を祈り求め、聖書に記されている真理、正義、憐れみの基準と照らし合わせながら決断するようにしたいです。

主は すべてののわざわいからあなたを守り あなたのたましいを守られる。主はあなたを 行くにも帰るにも 今よりとこしえまでも守られる。(詩篇 121 篇 1-3, 7-8 節)

私が幼少時代に暗記した言葉ですが、社会人となって嵐のように感じた出来事が起こり、食事がのどを通らないほど苦しんでいた時に思い出して読み返し、暗い気持ちが吹っ切れたのを思い出します。その時に考えたのは、「そうだ、私が信じているのは、天地万物を造られ、宇宙のすべてをコントロールされている神様だ。神様はすべてをご存じで、神様が許さないで起きることは一つもないのだから神様に信頼し、任せよう」ということです。そして、神様に問題の解決を祈り求めました。今となって、その問題の結末は全く覚えていませんが、神様に祈ってすぐに気持ちが楽になり、ちゃんと食事でもできるようになったのを思い出します。私自身、今は本当に恵まれている環境について感謝しかありません。大好きなかわいい子どもたちと日々接し、その子どもたちに神様のことを教えることができる恵み、協力的で理解のある保護者、および、同じ思い、同じ志を持って子どもたちに伝えようとする教職員にも恵まれ、こんな素晴らしい環境を与えてくださった神様に感謝しています。そのような恵まれた環境の中にあいながらも、この地上にいる間は、罪の呪いのために苦難も試練もあります。そのたびに思い起こしている

のは、この詩篇の言葉をはじめ、神様のもろもろの約束です。そして、この世界で自分がどんなことになっても、天国と永遠の命の約束があること、それを考えると本当によろしくなります。皆さん全員が、そのような喜びと平安を持てるように心から願っております。

### 最大の宝

子どもたちは、神様からの尊い贈り物、最大の宝です。私たち園の教職員がその大切な命とかわりを持てることは、特権であり特別な恵みと喜びです。と同時に大きな責任でもあります。皆様からの期待と信頼に応えることができるよう、今年度も、さらに高いレベルの教育を目指してまいります。神様から与えられたこの尊い子どもたちの幸せな将来のために、保護者の皆様と園の職員が良い信頼関係を築き、協力し合っていくように願っております。今年度もどうぞよろしくお願いたします。



昨年も保護者の皆様からたくさんのご協力をいただきました。(写真は感謝祭、カレー作りを手伝っていただいたクラスマザーのみなさんと)

MeySen Newsletter No. 210

# Friends Spring 2025

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。



## Friends

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

発行日: 2025年4月20日 発行: 宮城明泉学園 www.meysen.ac.jp Friends Newsletterは年に4回、カンガルークラブからハイスクール、同窓生などに関するニュースをお届けする学園ニュースレーターで、明泉サイトでも公開しています。



本誌で引用している聖書は、以下の聖書によります。聖書 新訳 新日本聖書刊行会

# SPRING INTO A NEW YEAR WITH MEYSEN

## フレンドクラブ & プリミアエレメンタリー教材や家庭学習のポイント

REPサポートサイトもできました

昨年度末に実施した保護者アンケートでは、フレンドクラブやプリミアエレメンタリーのご家庭から、英語学習の目標や家庭学習REPの効果的な進め方についてたくさんのご質問をいただきました。

GrapeSEEDのカリキュラムは、「1年生では〇〇をマスターする」といった学年ごとの目標を定める形ではなく、年中から6年生まで段階的に反復しながら新しい単語と表現を習得する構造になっています。例えば、1つのユニットで学んだことを忘れてしまっても、別なユニットにまたその語彙や概念が盛り込まれているので、継続して学ぶことでしっかり力がついていきます。

また、各ユニットの学習内容や、保護者の方々から寄せられるよくあるご質問への回答など、REPに役立つ情報をワンストップで確認できるサイトを4月にオープンしましたので、ぜひご利用ください。 ※サイトのURLなど詳細は、在園児・生徒のご家庭に別途お知らせします。



### ユニットの学習例

| フレンドクラブ |  |
|---------|--|
| 1年生     | <b>Unit 9~12</b> (例)Unit 9<br>▶ 人称代名詞「I, you, he, she, we, they」<br>▶ 「really」「so」「favorite」を用いた表現                                 |
| 2年生     | <b>Unit 13~16</b> (例)Unit 13<br>▶ 所有代名詞「his/her」<br>▶ 「each」「soon」「as soon as」を用いた時間表現   |
| 3年生     | <b>Unit 17~20</b> (例)Unit 17<br>▶ 「just right」「could」「should」を用いた表現  |
| 4年生     | <b>Unit 21~24</b> (例)Unit 21<br>▶ 擬音語「swish」「splash」「squish」<br>▶ 現在完了形「Have you ever seen...?」を用いた表現、「How are you doing?」を用いた会話練習 |
| 5年生     | <b>Unit 25~28</b> (例)Unit 26<br>▶ 「if」「would」「looks like」の表現と命令の表現   |
| 6年生     | <b>Unit 29~32</b> (例)Unit 29<br>▶ 「stayed up」「up to you」「right away」を理解する<br>▶ 「which」を用いた表現、基数と序数それぞれの表現                          |

| プリミアエレメンタリー |  |
|-------------|--|
| G1          | <b>Unit 13~17</b> (例)Unit 15<br>▶ 形容詞を用いた比較級/最上級<br>▶ 「I think」「I don't think」で確実性を表現                        |
| G2          | <b>Unit 18~22</b> (例)Unit 20<br>▶ 「might」を用いた可能性・推量の表現や人称代名詞と「should」を用いた提案の表現<br>▶ 「I heard」を用いた表現          |
| G3          | <b>Unit 23~27</b> (例)Unit 25<br>▶ 「It looks that way」<br>▶ 「I wonder」「what」「why」「where」「when」「if」「how」を用いた表現 |
| G4          | <b>Unit 28~31</b> (例)Unit 30<br>▶ 「Have you heard...?」を用いた表現<br>▶ 相手に説明を求める表現                                |
| G5          | <b>Unit 32~36</b> (例)Unit 35<br>▶ 義務を表す表現<br>▶ 満足/不満を表す感情表現  |
| G6          | <b>Unit 37~40</b> (例)Unit 40<br>▶ 電話で用いられる特有の表現<br>▶ 可能性の度合いの表現  |



フレンドクラブ7年スペシャルデー ハマ山動物公園



年少ファミリーデー



フレンドクラブ2年スペシャルデー みずのくにの湖畔公園



プリミアKS遠足



フレンドクラブのプリミアエレメンタリーフレンズデー



タドラークラスわくわくデー

## 音色豊かなブラスの世界を堪能!

～1月開催の音楽鑑賞会～

今年の音楽鑑賞会は、「金管五重奏演奏会」でした。金管楽器（ブラス）は、音の出し方に特徴があり、マウスピースに息を通すとき唇をふるふる震わせるのだそうです。幕開けは、だれもが聞いたことのある元気の良い行進曲「ロッセーニのウィリアム・テル序曲」で一気楽しい気分させられます。

トランペットの浦田誠真さんの楽しいMCで、各楽器の特徴が紹介されました。構えたとき音が後ろ向きに出るホルン、スライドが伸び縮みするトロンボーン、そしていちばん大きいチューバは15kgもあるそうです。チューバが強力な低音で象の鳴き声を演奏すると、なんとアンコールが起きました!

金管楽器を生かしたイギリスの作曲家ファーナービーの短い3曲のあと、「ゴジラのテーマ」をいろんな雰囲気まで奏でる狂詩曲が演奏され、金管楽器の音色の豊かさに驚きました。「サウンド・オブ・ミュージックメドレー」は、「My Favorite Things (私のお気に入り)」、「Climb Ev'ry Mountain (すべての山に登れ)」で映画の世界に引き込まれ、となりのトロクの「さんぽ」にみんなは手拍子で大喜び。フィナーレはお約束の「明泉幼稚園園歌 (英語版)」でした。

金管楽器の魅力をたっぷり味わうひと時でした。



演奏者 (写真左から)  
 浦田 誠真 トランペット、MC  
 中野 徳紀 ホルン  
 山田 悠貴 テューバ  
 紺野 駿人 トロンボーン  
 井上 直樹 トランペット

### 演目

- ①ロッセーニ：ウィリアム・テル序曲
- ②ファーナービー：金管五重奏のための組曲
- ③ゴジラのテーマ 管弦楽のための協奏風狂詩曲
- ④ロジャー：サウンド・オブ・ミュージックメドレー
- ⑤となりのトロクより、さんぽ
- ⑥明泉幼稚園園歌 (英語版)

## 明泉ボランティア活動報告会を開きました

2024年度は実に202名の方にご参加いただいた保護者ボランティア活動。12月までに10時間以上または5回以上参加してくださった方々をお招きし、2月26日に活動報告会を開きました。教材準備やFitKidsでボランティアを務めてくださったお母様に感謝を伺いましたので、ぜひご覧ください。2025年度新入園の保護者の皆様のご参加もお待ちしております!



活動報告会には47名が参加していただきました

永元 綾野さん (フレンド5年) と 榎志君 (フレンド5年) と 通矢君 (フレンド2年) のお母さま

「今日も楽しかった!」とあたりまえのように日々帰宅していた息子たちの園生活は、たくさん人と時間で支えられていたということ、明泉ボランティアに初めて参加した際に痛感しました。幅広い年齢の子どもたちが通う明泉だからこそ、先生方は教材や行事の準備に相当な時間を費やしてくださっています。その先生方の思いを身近に感じながら、一丸となって子どもたちを支えることができる素敵な時間が、明泉ボランティアです。

また、他学年の保護者の方々と出会えることも、ボランティアの魅力の一つと感じます。新型コロナウイルスの影響もあり、保護者の方々と交流できない時期も経験しました。改めてつながりの大切さを実感しています。私は、息子たちが通う小学校のボランティア活動も始めました。明泉ボランティアがきっかけとなり、自分の幅を広げることもできました。そして、息子たちの教育活動の場に少しでも関わられることをうれしく思います。

ボランティア作業は多種多様で、毎回さまざまな作業ができるので、とても楽しい時間を過ごしています。みんなで知恵を出し合い、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら作業する時間が、とても大好きです。

最後になりましたが、いつも温かいお声をかけてくださる明泉学園の職員の皆様、そして、いつも温かい心でボランティア活動に動いている保護者の方々に感謝いたします。

初果さん (フレンド1年) と 灯架さん (年中) のお母さま

2年間FitKidsのボランティア活動に参加させていただき、ありがとうございます。初めは、私が携わることによって娘が甘えてしまい、集中して運動できなくなるのではと思いつめていましたが、実際に参加しているお母さまから「子どもたちのかわいらしい姿が見られるからやるほうがいいよ!」と背中を押していただき、娘と相談して決意しました。

ボランティアを経て思うことは、「やってよかった!」これに尽きます。普段見ることができない我が子の園での友達や先生との関わり方、考え方、行動、表情などを見るのができました。そして、FitKidsの内容にも驚きの連続でした。遊びの中に縄跳び、跳び箱、鉄棒につながる動作が入っていたり、どのように声をかけ、何を手伝うと上達するかなど、子どもとの関わり方も知ることができました。そのおかげで、娘と一緒に活動を振り返りながら明泉デーに向けて走る練習をしたり、FitKidsからの帰りは「こんなことができていたね!」と話し合えて、とてもうれしかったです。我が子だけでなく、子どもたち全員がどんどん上達する姿に感動し、FitKidsの時間以外で会っても私に声をかけてくれるのもとてもうれしいです。



貴重な機会をいただき、ありがとうございました。この目で見た子どもたちの頑張りと成長は忘れません。

## 「地域ふれあいの集い」を開催

地域一体型留学支援プロジェクト「A Way We Learn」や園の英語教育活動に寄付をくださった企業の方々をお招きし、ご寄付への感謝を表す「地域ふれあいの集い」を1月に開催しました。

賛同企業の支援を受け長期留学を果たした留学生は、第1回目の2018年度から2024年度までに38名、そして今年の夏には2025年度留学生3名がアメリカに旅立ちます。

この集いは、若い世代が地域・日本の経済を支え発展させている企業の方々と交流できる貴重な機会でもあります。明泉学園への教育支援に心から感謝いたしますとともに、園が世代を超えた地域交流の起点の一つとなるよう今後も取り組んでまいります。



多くの方にご出席いただき、スポンサーシップへの感謝の輪を贈呈



帰国生が企業の皆様へ感謝の気持ちを伝えるスピーチを行いました

Marie 宮下 倫佳 Marcia 角道 真子